

国土を守るの 地域建設業の 挑戦

第7回建設トップランナーフォーラムより

全6回の1

港区の建築会館ホールで7月12日に行われた第7回建設トップランナーフォーラムは、「国土を守る地域建設業の挑戦」をテーマに行われた。初めに、主催者である建設ト

ップランナー倶楽部の米田雅子代表幹事が趣旨説明、来賓を代表して国土交通省の佐藤直良技監と、前国土交通事務次官で芝浦工業大学の谷口博昭教授があいさつした。



米田代表幹事

域再生に挑む建設業の課題と展望を浮き彫りにしたいとの趣旨を説明した。

「地域守る建設業」役割再確認

「日本は地震多発列島の様相を呈している。今こそ国土を守るために頑張らなければならぬが、取り巻く環境は厳しい」と強調した。そのようなか、社会基盤や地域を支えるために奮闘する建設業の真摯な取り組みを発信したいと述べた。

や消防よりも早く、真っ先に現地に駆け付けたのが地域建設企業だったにも関わらず、その活動状況が映像や写真でほとんど報じられていないことについて、「建設業の命を賭けた行動が報道されていない」と指摘した。さらに佐藤技監は「地域を

東日本大震災から1年余りが経過した。米田代表幹事は「復旧・復興はまだまだ道半ば。復興バブルといわれるが、地元は大きな課題を背負っている」と問題を提起した。東北以外の現状として米田代表幹事は「公共事業が減少傾向にある」と警鐘を鳴らし、



佐藤技監

来賓として出席した佐藤技監は、東日本大震災で自衛隊

産学官連携で強靱な国土形成

守るために動いただけ。写真を撮ったり、報道のことを考える余裕は全くなかった」という地元建設企業の言葉を紹介し、「地域を守る建設業の誇りを感じた」と強調。その上で「地域を守る建設業の役割を再確認してほしい」とフォーラムの成功に期待を寄せた。

続いて登壇した谷口教授は、東北地方整備局が東北自動車道や国道4号の縦軸から太平洋側に道路開通した「くしの歯作戦」などに触れ、あらためて建設業の必要性を強調した。

また、災害への備えが重要とした谷口教授は、地域建設業が存続し、いざという時に必要な機械や技能者を調達・

震災で浮き彫りとなった脆弱(ぜいじゃく)な国土を強靱(きょうじん)化するという大きな課題に向けては、「ハード面の防災対策と、地域の実情に合わせたソフト面での減災対策をバランス良く組み合わせることが重要」とし、産学官が連携して強くしなやかな国土をつくるべきだと訴えた。(「地方建設記者の会」取材班)



谷口教授